

1-1 染織祭記録(昭和6年以降)

概 要

設立趣意書・規約・紋章縁起書・染織祭式次第・行列内容

(主な内容)

〈染織講社設立趣意書〉

染織技術は世界各国を通じきわめて古く、我が国においても原始時代にその道が開かれ近代科学の進歩は機械の応用を促進し今日の隆盛をみるに至っている。

しかるに京都では四季を通じ各神社の催事が行われているが、府民に最も関係が深い染織祖神への感謝の祭りが乏しきは誠に遺憾。

ここに染織講社を設立し毎年陽春の季節に染織祭を行うをもって、我が国染織諸祖神のご神徳に感謝するものである。

京都は染織業が重要な産業、市民にも関係が深いから染織祭を創設。

時代祭は平安京を偲ぶ史的祭典として、染織祭は生業を謳歌礼賛する産業祭として京洛の地に二大祭典として対比させた。

祭神一天棚機姫神(あめのたなばたひめのかみ)

天羽槌雄神(あめのはつちおのかみ)

天日鷲神(あめのひわしのかみ)

長白羽神(ながしらはかみ)

津昨見神(つくひみのかみ)

保食神(うけもちのかみ)

栲幡千々姫命(たくはたちじひめのみこと)

呉職女(くれはとりめ)(合祭)

漢職女(あやはとりめ)(合祭)

※天日鷲神、津昨見神の2神は穀を播種して木綿を作らせ、長白羽神は麻布を織らせ、天羽槌雄神文布を織らせる部曲の首長として降臨。

〈規約の制定〉

染織講社設立の目的とするところは、染織祖神の神徳を宣揚し敬神尊祖の美風を涵養する。

事業内容－染織祭の挙行/前項と関連する施設の設置。

〈染織講社紋章縁起書〉

(染織講社紋章)



外円は天照大神すなわち太陽の象徴。

天羽槌雄神、天日鷲神、津昨見神、長白羽神は天照大神に源を発し神々の力によって今日の繊維工業の発達を招いた。故に天照大神は繊維工業の父であり母である。

〈昭和6年～12年染織祭式次第・行列他内容〉

行列順序 赤字は前年と変更箇所

(昭和6年) 府庁→丸太町通→烏丸通→四条通→祇園石段下→東山通→二条通→岡崎公会堂前より祭場

(昭和7年) 府庁→丸太町通→烏丸通→四条通→河原町通→二条通→慶天門通より祭場

(昭和8年) 昭和7年と同様

(昭和9年) 府庁→下立売通→烏丸通→四条通→河原町通→二条通→慶天門通より祭場

(昭和10年) 昭和9年と同様

(昭和11年) 昭和9年と同様

(昭和12年) 昭和9年と同様

参加者 (昭和6年)

知事、市長、会議所会頭、染織講社役員、市立第一工業学校(染色科、機械科)、西陣織物商協会、西陣織物同業組合、半襟商組合、京都刺繍同業組合、京都染物同業組合、京都縮緬商組合、京都浜縮緬商組合、京都正絹同盟会、丹後縮緬同業組合、京都小売商連盟、京都染呉服商組合、関東織物商組合、京染呉服悉皆同業組合、京都木綿商組合、白川水洗團、京都市料理飲食業聯合組合、伏見協賛團自動車、日活・松竹・帝キネ男女優、日本織物新聞社、京都市消防團、中外染織新聞社、その他※昭和7年の映像には協賛企業の屋台車が映っている。

祭の歌

①染織祭歌(歌の節は豊国祭歌の節) 昭和6年

※染織祭奉祝踊の踊りの唄(2日間。12日は午後より、13日は終日)

②花や咲きたる安らや 昭和7年

※やすらい花踊の唄

③染織祭小町踊り唱歌 昭和8年

④染織祭やすらい花唱歌 昭和8年

⑤歌垣唱歌 昭和9年

⑥醍醐の花見踊の歌 昭和10年

昭和13年以降の染織祭

昭和12年7月の盧溝橋事件を発端に日中戦争が開戦し、昭和13年の染織祭は未曾有の事変下に鑑み行列を中止し祭祀のみとした。

昭和14年、行列見合わせ。猪飼嘯谷作の風俗画展を開催(京都美術館)

昭和15年、行列見合わせ。染織祭衣装展を開催(京都美術館)

※染織講社10周年。関係者に記念品贈呈

昭和16年、行列見合わせ、祭祀にてやすらい花踊奉納

昭和17年、行列見合わせ、祭祀にて小町踊奉納

昭和18年、行列見合わせ、祭祀にてやすらい花踊奉納

昭和19年、行列見合わせ

昭和20年、行列見合わせ